

# 京都滋賀体育学会 第155回大会 プログラム & 抄録集



**日時：** 2026年3月7日（土）13:00～17:20

**場所：** 龍谷大学 深草学舎 慧光館102教室

**主催：** 京都滋賀体育学会



# 京都滋賀体育学会 第155回大会

日時：2026年3月7日(土) 13:00~17:20

場所：龍谷大学 深草学舎 慧光館 102 教室 (〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 )

主催：京都滋賀体育学会

## 【大会役員】

大会長：松永 敬子 (龍谷大学)

## 【大会事務局】

事務局長：松畑 尚子 (龍谷大学) お問い合わせ：kyoto.shiga.155@gmail.com

## 【大会参加費】

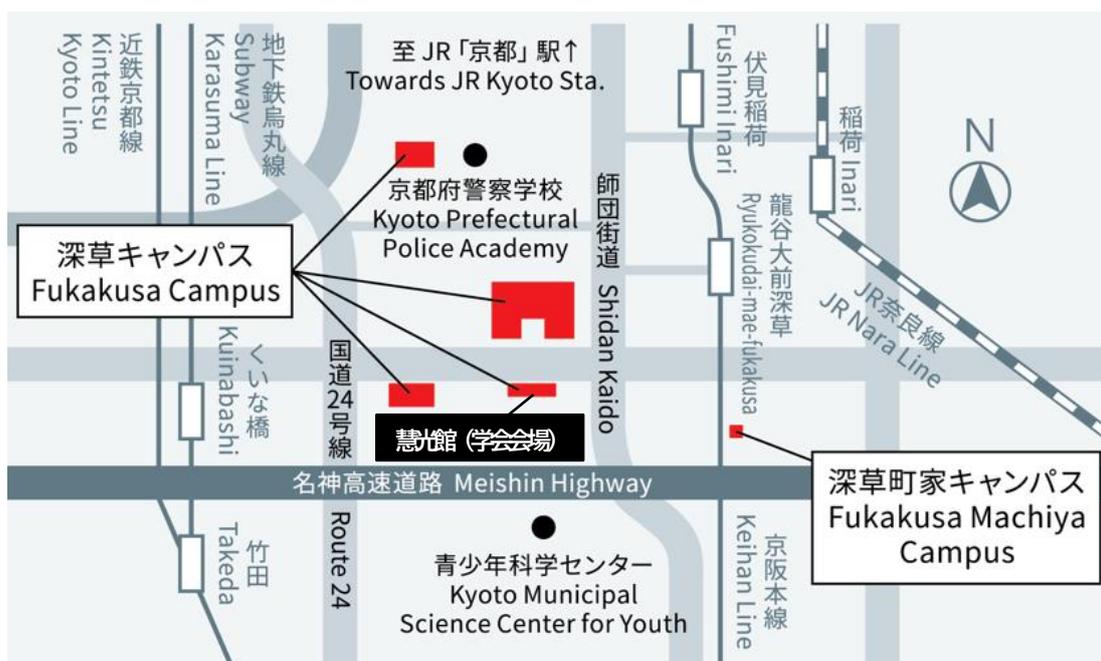
会 員：無料

非会員：1,000円 (当日会員) 大会受付にてお支払い下さい (事前申込・事前支払不要)

※パネルディスカッションのみ、京都府・滋賀県内の部活動地域展開関連関係者は参加費無料

## 【大会日程】

時間	日程	場所
12:00-13:00	理事会	慧光館 104
12:30-13:00	受付	慧光館 102
13:00-13:05	オープニング	慧光館 102
13:05-14:50	一般研究発表	慧光館 102
15:00-16:20	パネルディスカッション	慧光館 102
16:30-17:15	総会・表彰式	慧光館 102
17:15-17:20	クロージング	慧光館 102



京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、慧光館まで西へ徒歩約6分

JR奈良線「稲荷」駅下車、慧光館まで南西へ徒歩約10分

京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、慧光館まで東へ徒歩約10分

京都市バス南5系統京都駅発「警察学校前」または「龍谷大学前」バス停下車、徒歩5分

### 一般発表者へのお知らせ：

- ・ 全て口頭発表とします。
- ・ 発表時間は7分、質疑応答3分（合計10分）です。発表終了2分前に1鈴、発表終了で2鈴、全体終了で3鈴を鳴らします。発表は時間厳守でお願いいたします。
- ・ 発表用のPCは、各自でご持参ください。事務局で準備したHDMIと接続し、会場内の液晶プロジェクターに投影します。
- ・ レーザーポインターは大会事務局にて準備します。
- ・

### 参加者へのお知らせ：

- ・ 会場には公共交通機関をご利用下さい。学内駐車場のご利用はできません。
- ・ 龍谷大学構内は禁煙です。
- ・ 会場にクロークはございません。持ち物および貴重品の管理はご自身でお願いいたします。
- ・ 「eduroam JP」に加盟の大学・研究機関等にご所属の方は、キャンパス無線LANのeduroamがご利用いただけます。



※受付は「正門」前の慧光館 1階 102教室の会場入口になります。

## 【プログラム】

オープニング 13:00~13:05 慧光館 102 教室

京都滋賀体育学会 会長 竹田 正樹 (同志社大学)

学会大会長 松永 敬子 (龍谷大学)

一般研究発表 セッション 1 13:05~13:40 慧光館 102 教室

座長：鈴木 啓央 (龍谷大学)

01 異なる自転車ローラートレーニングデバイスにおける筋活動、キネマティクスおよびキネティクス特性ならびにエネルギー効率の統合的解析

優○岡田空大<sup>1</sup>、梶原和子<sup>1</sup>、堀本遼治<sup>1</sup>、竹田正樹<sup>2</sup>

1 同志社大学スポーツ健康科学研究科、2 同志社大学スポーツ健康科学部

02 大学男子サッカー選手に対する経頭蓋直流電気刺激(tDCS)が、シュート能力に及ぼす影響

優○田中康汰朗<sup>1</sup>、岡本直輝<sup>2</sup>、美馬達哉<sup>3</sup>

1 立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科、2 立命館大学スポーツ健康科学部、3 立命館大学先端総合学術研究科

03 左右ベルト速度差の知覚能力とスプリットベルトトレッドミル歩行における歩行適応能力との関連

優○濱田司<sup>1</sup>、北村将也<sup>1,2</sup>、上林清孝<sup>3</sup>

1 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科、2 日本学術振興会特別研究員、3 同志社大学スポーツ健康科学部

優…若手研究奨励賞対象

一般研究発表 セッション 2 13:45~14:20 慧光館 102 教室

座長：松田 繁樹 (龍谷大学)

04 一定負荷および変動負荷条件下における自転車運動時の筋活動およびエネルギー代謝の比較

優○堀本遼治<sup>1</sup>、岡田空大<sup>1</sup>、宇田峻也<sup>1</sup>、梶原和子<sup>1</sup>、今谷琉香<sup>2</sup>、中野紘志<sup>1</sup>、竹田正樹<sup>2</sup>

1 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科、2 同志社大学スポーツ健康科学部

05 横断的解析が示す幼児から10代にかけての柔軟性の獲得過程の検証

優○辻井優佳<sup>1</sup>、肥田嘉文<sup>1</sup>、寄本明<sup>1</sup>

1 滋賀県立大学

06 中国小学校高学年児童を対象とした体育授業評価尺度の開発

優○湛藍<sup>1,2</sup>、大友智<sup>3</sup>、山浦一保<sup>3</sup>、藤井一貴<sup>1,4</sup>、甲斐義一<sup>1,5</sup>、高橋野人<sup>1,6</sup>

1 立命館大学大学院、2 昭通学院、3 立命館大学、4 育英大学、5 大分県教育委員会、6 桐生市立新里東小学校

優…若手研究奨励賞対象

座長：藪中 祐樹（龍谷大学）

07 バレーボール選手における競技レベルに着目したイメージ能力と自己効力感との関連性  
櫻○野村はなこ<sup>1</sup>、笹場育子<sup>2</sup>

1 立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科、2 立命館大学スポーツ健康科学部

08 地域在住高齢者における社会的フレイルを考慮した握力と客観的認知機能との関係  
櫻○島袋朋哉<sup>1</sup>、橋本海斗<sup>1</sup>、下山泰輝<sup>1</sup>、村上嘉野<sup>1</sup>、塚本敏人<sup>2</sup>、岸上慶子<sup>1</sup>、今井あいこ<sup>1,3</sup>、  
山浦一保<sup>1</sup>、橋本健志<sup>1</sup>、真田樹義<sup>1</sup>

1 立命館大学、2 早稲田大学、3 名古屋葵大学

櫻…若手研究奨励賞対象

休憩

14:50~15:00

休憩室：慧光館 103 教室

※コーヒー・紅茶・お茶などをご用意しております。

パネルディスカッション

15:00~16:20

慧光館 102 教室

テーマ：京都府・滋賀県の部活動改革の現状と課題

パネラー：長積 仁 氏（立命館大学）、黒澤 寛己 氏（びわこ成蹊スポーツ大学）

コーディネーター：松永 敬子（龍谷大学）

京都滋賀体育学会総会・奨励賞表彰

16:30~17:15

慧光館 102 教室

クロージング

17:15~17:20

慧光館 102 教室



京都滋賀体育学会 第155回大会 実行委員会

大会長： 松永 敬子

事務局長： 松畑 尚子

実行委員： 大西 孝之

河合 美香

佐々木 浩雄

鈴木 啓央

松田 繁樹

藪中 佑樹

（以上、龍谷大学）

## 【一般研究発表抄録】

### 演題番号 01

異なる自転車ローラートレーニングデバイスにおける筋活動、キネマティクスおよびキネティクス特性ならびにエネルギー効率の統合的解析

◎岡田空大（同志社大学スポーツ健康科学研究科）、梶原和子（同志社大学スポーツ健康科学研究科）、堀本遼治（同志社大学スポーツ健康科学研究科）、竹田正樹（同志社大学スポーツ健康科学部）

【緒言】三本ローラーは固定ローラーに比べ 10kmTT 成績を向上させるが、その要因は未解明である。本研究は両条件の自転車運動特性を筋活動、動作特性、エネルギー代謝の観点から統合的に比較し、差異を明らかにすることを目的とした。

【方法】男子トライアスロン選手 14 名が固定、三本、実地代替（トレッドミル）の 3 条件で 75%  $VO_{2max}$  の自転車運動を 10 分間実施。仕事率とケイデンスを統制し、呼気ガス交換諸量、血中乳酸濃度、筋電図、車体および身体傾斜を測定した。

【結果】仕事率、酸素摂取量、心拍数、血中乳酸濃度に有意差はなかったが、固定では車体左右傾斜が小さく身体動揺が大きかった。加えて、外側広筋、内側広筋、腓腹筋でクランク角度局面に依存した有意な筋活動差を認めた。

【結論】固定では自由度制限により筋活動が特定局面に集中する一方、三本は自転車の傾きを活用した力発揮が可能となり、実走により近い動作および筋活動様式を示すことが示唆された。

### 演題番号 02

大学男子サッカー選手に対する経頭蓋直流電気刺激(tDCS)が、シュート能力に及ぼす影響

◎田中康汰朗（立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科）、岡本直輝（立命館大学スポーツ健康科学部）、美馬達哉（立命館大学先端総合学術研究科）

【緒言】標的脳部位に磁気や電気刺激を加え、精神・神経疾患の治療やリハビリテーションを促す非侵襲的脳刺激法(NIBS)は、安全性が高く近年注目されている。一方、スポーツ特異的な技術・スキルへの応用研究は限られている。本研究は、大学男子サッカー選手の一次運動野(M1)に対する経頭蓋直流電気刺激(tDCS)がシュート能力に及ぼす影響を検討した。【方法】大学男子サッカー選手 11 名を対象に、M1 への陽極刺激(2mA、20 分)と偽刺激を実施し、シュート動作におけるボールコントロール及びボール速度、つま先移動時間を介入前後で比較した。【結果】ボールコントロール及びつま先移動時間では、刺激条件と偽刺激条件との間において、介入前後で有意な差は認められなかった。一方、ボール速度では刺激条件において、利き足・非利き足ともに有意に速度が低下した( $p < 0.01$ )。【結論】大学男子サッカー選手の M1 に対する tDCS は、シュートのボール速度を即時的に低下させる可能性がある。

## 演題番号 03

### 左右ベルト速度差の知覚能力とスプリットベルトトレッドミル歩行における歩行適応能力との関連

◎濱田 司 1、北村 将也 1,2、上林 清孝 3 (1 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科、2 日本学術振興会特別研究員、3 同志社大学スポーツ健康科学部)

目的：左右ベルト速度差の知覚能力と歩行適応能力との関連を明らかにすることを目的とした。  
方法：健常成人 18 名を対象とし、速度差知覚能力の評価では左右同速(3.6 km/h)から片側の速度を徐々に上昇させ、速度差を知覚した時点の速度差を知覚閾値とした。歩行適応の評価では左右同速条件(3.6 km/h)で 2 分間、スプリット条件(左: 5.4 km/h, 右: 3.6 km/h)で 10 分間歩行させ、スプリット条件における左右のステップ長の非対称性の適応速度(適応するまでのストライド数)を算出した。さらに、ステップ長の非対称性に対するステップ位置およびステップ時間の適応速度についても評価した。

結果：ステップ長の非対称性およびステップ位置の適応速度は、知覚閾値と有意な正の相関を示した。

結論：速度差知覚能力に優れた人は歩行の非対称性の修正能力に優れ、特にステップ位置に関わる空間的要素の調節能力が高いことが示唆された。

## 演題番号 04

### 一定負荷および変動負荷条件下における自転車運動時の筋活動およびエネルギー代謝の比較

◎堀本遼治 (同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科), 岡田空大 (同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科), 宇田峻也 (同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科), 梶原和子 (同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科), 今谷琉香 (同志社大学スポーツ健康科学部), 中野紘志 (同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科), 竹田正樹 (同志社大学スポーツ健康科学部)

【研究の背景・目的】先行研究では、一定負荷と変動負荷のサイクリングにおいて、筋活動や代謝応答が異なる可能性が示唆されているが、サイクリング中の筋活動およびエネルギー代謝の時間的変化については十分に明らかにされていない。本研究は、同一仕事量条件下における一定負荷および変動負荷サイクリングが、筋活動およびエネルギー代謝に及ぼす影響を比較検討することを目的とした。

【方法】男子競技者 12 名を対象に、OBLA 強度を基準として一定負荷 (100%) および変動負荷 (105%・95%を 5 分交互) で 30 分間のサイクリング運動を実施した。呼気ガス交換諸量、血中乳酸濃度、RPE および下肢 7 筋の EMG を測定し、RMS は MVC で正規化した。

【結果・考察】変動負荷では 95%区間で呼気ガス交換諸量が低値を示し、105%区間では大腿直筋および内側広筋の RMS が相対的に高値を示した。

【結論】同一仕事量条件下において、変動負荷は筋活動を高く維持しつつ、エネルギー代謝を抑制できる可能性が示唆された。

## 演題番号 05

### 横断的解析が示す幼児から 10 代にかけての柔軟性の獲得過程の検証

◎辻井優佳・肥田嘉文・寄本明（滋賀県立大学）

【目的】床反力を股関節へ作用させて柔軟性を得る体の仕組みとして、脚の形状が「Y字」に保たれることが鍵となると仮定し、幼児から 10 代の体の柔軟性、計測値を調査してきた。本研究では、学年比較の横断的解析の結果を検証する上で、重心動揺度への体格の影響を身長、足の長さに着目して検討し、またスポーツ経験が柔軟性に与える影響について考察した。【方法】股関節の柔軟性指標として立位体前屈を、姿勢の不安定度として重心動揺度を計測した。解析には 2011～2024 年度の全計測結果を用いた。【結果・考察】姿勢の不安定度は男女ともに 5 歳児、小学 2 年生で高く、その後の安定化は女子で早かった。この変化は体格の変化と対応しなかった。横断的解析および 5 歳児から小学 4 年生における個人の追跡解析により、小学時スポーツ経験は身体活動量を増加させプラス要因になるが、膝の屈伸を多く伴う活動ではマイナス要因になる可能性が考えられた。

## 演題番号 06

### 中国小学校高学年児童を対象とした体育授業評価尺度の開発

◎湛藍（立命館大学大学院・昭通学院）・大友智（立命館大学）・山浦一保（立命館大学）・藤井一貴（立命館大学大学院・育英大学）・甲斐義一（立命館大学大学院・大分県教育委員会）・高橋野人（立命館大学大学院・桐生市立新里東小学校）

中国の体育目標である運動能力、健康行為、及び、体育道徳から構成される「核心素養」に対応した体育授業評価尺度がない。

本研究の目的は、第一に小学校高学年とした体育授業評価尺度を開発し、第二に地域差及び性差を検討することであった。

中国の 3 校 267 名の児童を対象に調査した。因子分析の結果、運動能力尺度は「戦術・技術実践」及び「規範・課題伝達」の 2 因子、健康行為尺度は「自己調整」及び「日常生活転移」の 2 因子、体育道徳尺度は「挑戦」及び「規則・礼節遵守」の 2 因子が抽出され、各尺度において信頼性及び妥当性が認められた。

都市部児童は「戦術・技術実践」因子及び「日常生活転移」因子で、また、農村部児童は「規則・礼節遵守」因子で有意に高値を示した。都市部及び農村部の女子児童は、男子児童と比較して「自己調整」因子及び「規則・礼節遵守」因子で有意に高値を示した。

今後、他学年の尺度開発及び授業プログラム開発が課題である。

### 演題番号 07

#### バレーボール選手における競技レベルに着目したイメージ能力と自己効力感との関連性

◎野村はなこ・立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科、笹場育子・立命館大学スポーツ健康科学部

緒言：イメージは自己効力感向上に寄与する心理スキルであり、競技力とイメージ能力の高さには正の相関が示されている。しかし、競技種目及び競技力に着目したイメージ能力と自己効力感との関連について検討した研究は限られている。本研究は、バレーボール選手の競技力の違いに着目しイメージ能力及び自己効力感の水準の違いを明らかにすることを目的とした。

方法：競技力の異なる大学男子バレーボール選手 77 名を対象に、イメージ能力、自己効力感、関連する心理的要因について質問紙及び自由記述による調査を実施した。

結果：イメージ能力 ( $p=.683$ ) 及び自己効力感 ( $p=.313$ ) に競技力間の有意差は認められなかった。関連要因として、認知的不安 ( $p=.021$ ) 及び身体的不安 ( $p<.001$ ) はエリート群で有意に低く、自信 ( $p=.025$ ) は有意に高い値を示した。主題分析では両群共通の 8 テーマが抽出された。

結論：イメージ能力及び自己効力感の水準には競技力による差は認められなかった。

### 演題番号 08

#### 地域在住高齢者における社会的フレイルを考慮した握力と客観的認知機能との関係

◎島袋朋哉 1, 橋本海斗 1, 下山泰輝 1, 村上嘉野 1, 塚本敏人 2, 岸上慶子 1, 今井あいこ 1, 3, 山浦一保 1, 橋本健志 1, 真田樹義 1 (立命館大学 1, 早稲田大学 2, 名古屋葵大学)

#### 緒言・目的

握力の低下および社会的フレイル (SF) は認知機能低下と関連するが、SF の有無を考慮して握力と認知機能の関係を示した知見は不足しているため、それらの関係について検討した。

#### 方法

65~85 歳の高齢者 69 名を対象に、認知機能 (MoCA-J、TMT-A、TMT-B、Grooved Pegboard Test (GPT))、低握力 (男性 28kg、女性 18kg 未満)、SF を評価した。握力 2 群を独立変数、各認知機能指標を従属変数、年齢、性別、BMI、SF を共変量とした共分散分析を実施した。

#### 結果

低握力群は共変量調整後も MoCA-J 得点が低く ( $P=0.045$ )、TMT-A と GPT の所要時間が長く ( $P=0.038$ 、 $P<0.001$ )、TMT-B にも同様の有意傾向が示された ( $P=0.076$ )。

#### 結論

SF と独立して低握力群は認知機能が低値を示し、握力は認知機能低下の有用な指標となる可能性が示唆された。